

《担当者名》柳生 一自

【概要】

周産期、出生から思春期に至るまで、さまざまな体の成長に伴う変化があり、感染症などの外部からの侵襲、遺伝的要因など原因を理解し、小児特有の疾患に対応できる知識を身につける。

【学修目標】

医療従事者として、小児の患者に接したとき、その疾患に適切な対応ができるようになる、次のような医療知識を身につける。
 出生から、新生児期、乳児期、幼児期、学童期に運動、知能発達のマイルストーンが説明できる。
 小児の栄養・バイタルサインが説明できる。
 周産期・新生児期特有の疾患が列挙できる。その疾患の将来の影響が説明できる。
 先天奇形・染色体異常が説明できる。
 小児期の感染症の種類・症状・治療が説明できる。
 小児期の免疫異常、代謝異常が説明できる。
 小児期の内分泌疾患、思春期に移行する際の異常が説明できる。
 小児独特の腎臓疾患が説明できる。
 小児の神経疾患、筋疾患が説明できる。
 自閉症・多動症、アスペルガー症候群が説明できる。
 小児の救急性疾患が説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	成長・発達・栄養	小児の成長・身体計測・成長の評価・臓器の発育・母乳・栄養について学ぶ。	柳生 一自
2	新生児疾患	新生児仮死・呼吸障害について学ぶ。	柳生 一自
3	新生児・先天異常	新生児の疾患・染色体異常・先天性奇形について学ぶ。	柳生 一自
4	先天異常	染色体異常・先天性奇形について学ぶ。	柳生 一自
5	感染症	ウイルス感染症について学ぶ。	柳生 一自
6	感染症	細菌感染症・予防接種について学ぶ。	柳生 一自
7	免疫異常・アレルギー疾患	免疫不全・喘息・アトピー性皮膚炎などについて学ぶ。	柳生 一自
8	呼吸器疾患	クループ症候群・肺炎・喘息性気管支炎などについて学ぶ。	柳生 一自
9	循環器疾患	胎児循環・先天性心奇形について学ぶ。	柳生 一自
10	代謝性疾患	先天性代謝異常・小児の糖尿病・低血糖について学ぶ。	柳生 一自
11	内分泌疾患	低身長・思秋期早発症・甲状腺機能異常・尿崩症について学ぶ。	柳生 一自
12	血液・悪性腫瘍・中毒・救急医療	白血病・小児の悪性腫瘍・誤飲・溺水について学ぶ。	柳生 一自
13	腎疾患・尿路系疾患	小児の急性腎炎・慢性腎炎、先天性の腎・尿路系異常について学ぶ。	柳生 一自
14	神経	脳性麻痺・発達異常・痙攣性疾患について学ぶ。	柳生 一自
15	神経	筋肉疾患・自閉症について学ぶ。	柳生 一自

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

Google classroom を利用した、レポート形式マークシート試験 100%。

【教科書】

白木和夫 他 編 「ナースとコメディカルのための小児科学」 小児医事出版社 2014年

【参考書】

西 基、他：『New Simple Step小児科』 総合医学社

【備考】

Google FormやGoogle Classroom を活用し、資料配布や授業時間中にその場で学生の理解度を把握する。

【学修の準備】

予習は、各時限の講義項目の教科書領域を、一読し理解しておくこと。(80分)

復習は、講義項目のプリント内容を記憶すること。(80分)

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

- ・ 心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。
 - ・ 社会の変化、科学技術の進展に合わせて、教養と専門性を維持向上させる能力を修得している。
 - ・ 社会の様々な分野において、心の問題を評価し、それを適切に判断し援助できる基礎的技能を修得している。
- 上記に掲げる心理学部のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

医師、公認心理師

【実務経験を活かした教育内容】

小児科医師としての実務経験を活かした講義をすることで、医療の現場で役立つ知識、技術、態度の習得に寄与する教育を実践している。